

ChatGPT等の生成AIに関するアンケート 調査結果概要

河合塾では、2023年5月、標記のWEBアンケートを実施しました。ご多忙の折、ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

本資料では、高校、大学の教職員の方々のご回答に注目して結果の概要を報告させていただきます。

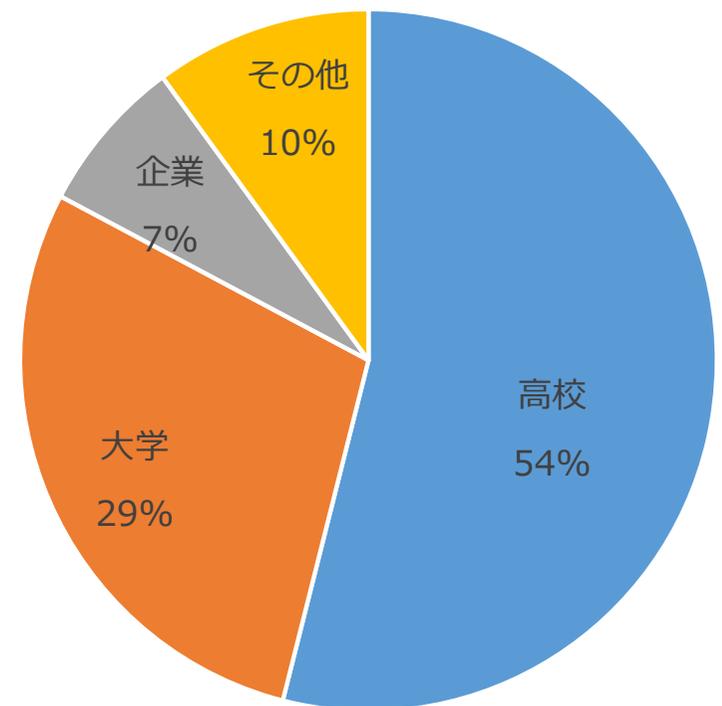
河合塾

対象 教育関係者
回答数 139件
実施方法 WEBアンケート
実施期間 2023年5月15日～31日

設問

1. ご所属（勤務先の学校種別・ご職業など）
2. ご自身は、生成AI（「ChatGPT」などテキスト生成AIや画像生成AI）を利用したことがありますか。
3. 具体的な利用方法と、使ってみた上での感想をお書きください。（利用したことがある場合）
4. 生成AIを、生徒や学生が学習に使うことについてどのようにお考えですか。最も近いものを選択してください。
5. 上記を選んだ理由を具体的にお書きください。
6. 生成AIの利用に関して、所属する組織では方針は出ていますか？
7. 方針の内容を差し支えない範囲でお書きください。（方針が出ている場合）

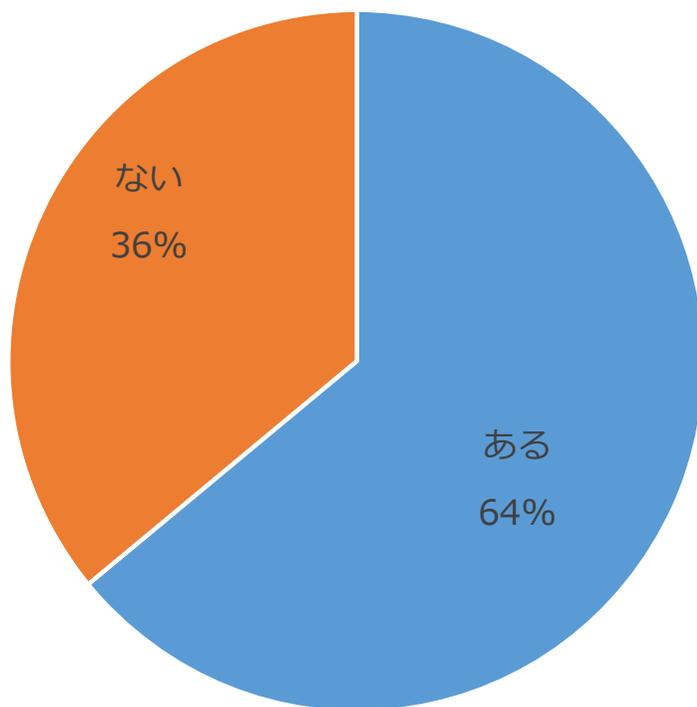
回答者の勤務先等（n=139）



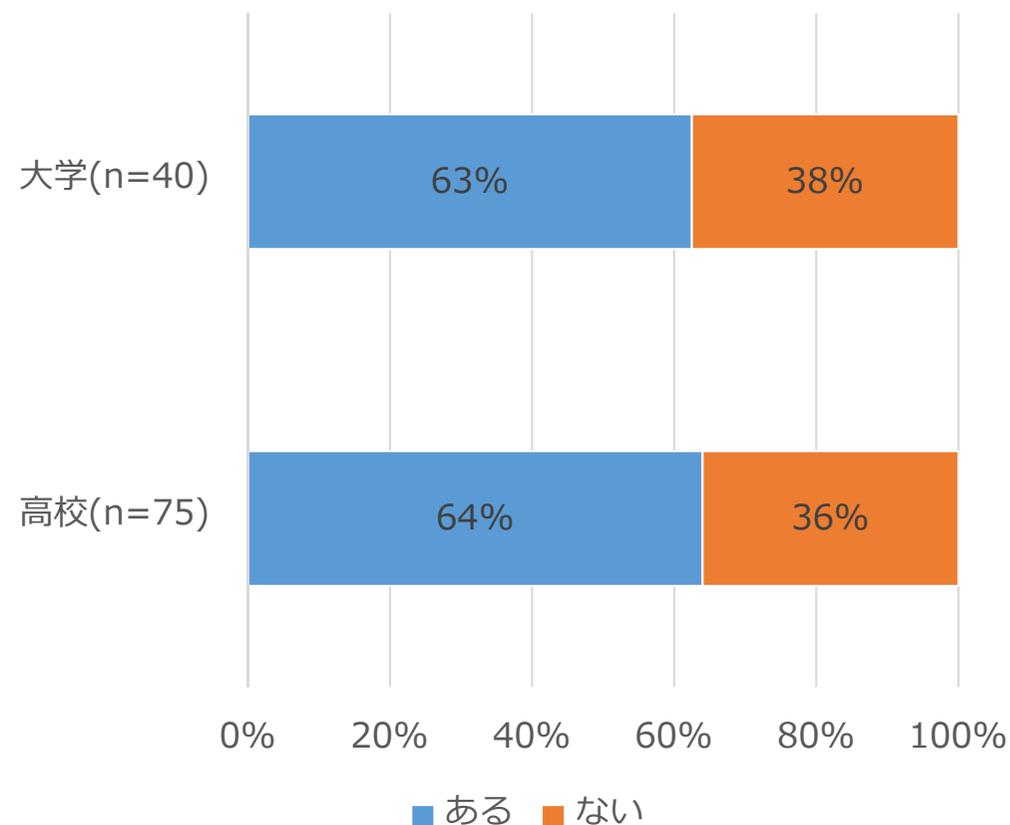
※「高校」には中等教育学校含む

回答者の6割が生成AIを利用したことが「ある」と回答。
使ったうえでの感想としては、文章生成能力の高さを評価する一方で、内容の信頼性の薄さや、内容を精査する労力、生徒・学生が安易に使用することの懸念などが挙がった。

生成AIの利用(n=139)



生成AIの利用



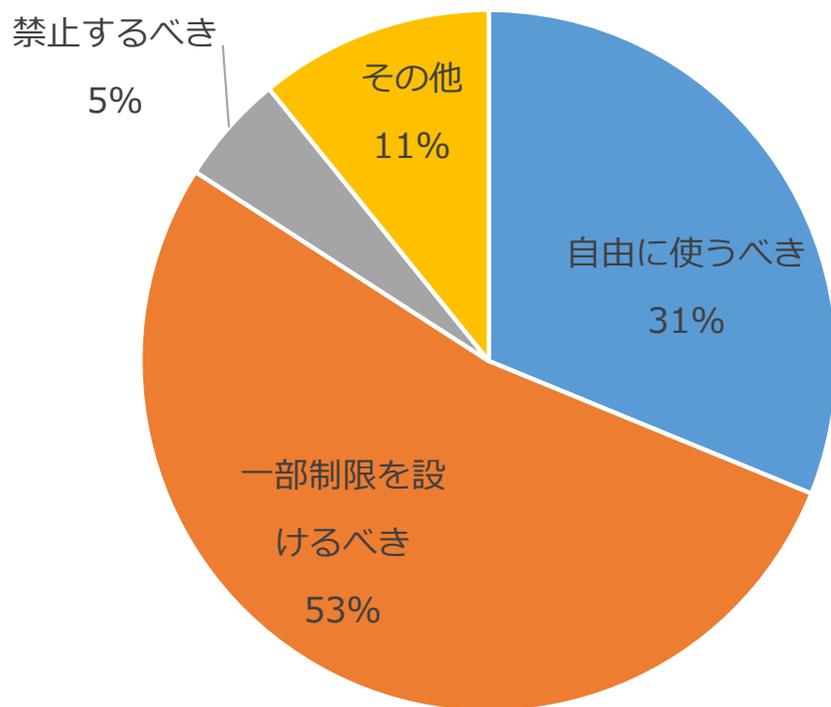
※「高校」には中等教育学校含む

- 小論文や志望理由書への回答がどうなるのか、試しに利用した程度です。一般論としては特に問題ない仕上がりで、教員が推薦書作成の際のテンプレートとして用いる程度であれば、時間短縮になると思います。個性を際立たせたりすることは難しいと思います。
(高)
- 受験生の立場で、総合型選抜や学校推薦型選抜を想定して、志望理由書を書かせてみた。(感想)当該大学やその大学所属に関係する先生や研究の情報発信をされている誤情報も少なく、それらしい志望理由書ができちゃう。(高)
- 校内文書の生成、アンケートの要約、まとめ 上手なプロンプトを作れば、非常に役に立つ。(高)
- 業務上の文書作成において、文章構成や論理展開の参考とするために、試験的に質問を入力して回答を作成させてみたことがある。文章構成やポイントの抽出に関しては参考となるものであったが、記載情報そのものが適切なものであるかについては確認が必要であり、使用する者の知識の量にも大きく依存するため、内容をそのまま使用するのは困難という印象を持った。(大)
- 試しに大学紹介の文章を作ってみた。事実が間違っただけで表記された。(大)
- メールの返信文書、Pythonコードのスク립ト生成、相談事。信憑性のある内容となればとても良い。
(高)
- プログラム作成、文献検索 文献検索では出典が明らかにならず残念、プログラムはミスがあるものの簡単な修正で利用可能となり評価できる (大)
- 授業開きなどで一旦挨拶する際に、適切な挨拶を考えてもらった。その後、ChatGPT作成の文書であることを明かし、本来の自分の言葉で挨拶し直す。最初のAIの言葉で見事に生徒が拍手をするので、やはりAIとしっかり区別する感性等を身に付けさせることが重要であると思った。(高)
- 企画の立案、教材の検索補助。有益な相談相手といった感覚です。(高)
- 最近ニュースで話題になっていたのを試しに利用してみた。テキスト生成能力の高さに驚くとともに、生徒や学生が安易に頼ってしまう危険性を感じた。(大)
- 簡単な調べもの。事実と異なる内容が提示されるとのネット上での評価を読み、自分でも実際に内容の正確さを知りたいと考えて行った。事実、内容は半分程度誤った内容であった。事実か否かを容易に判断できる内容の場合は良いが、そうでない場合はAIが返してきた内容を精査する労力は大きいと懸念をもった。
(教)
- やり取りからの検索の精度や質問者が望む回答の引き出し方を試してみました。また、Chat GPTとGoogle Bardの比較。私自身、専門は英語なので、生成AIとのやり取りそのものが英語学習になると思い、その活用法や拡張性を試しました。(高)
- 確認問題の生成、ChatGPTの回答を直させる課題の生成など。教員の授業準備の質を劇的に向上させる。
(大)

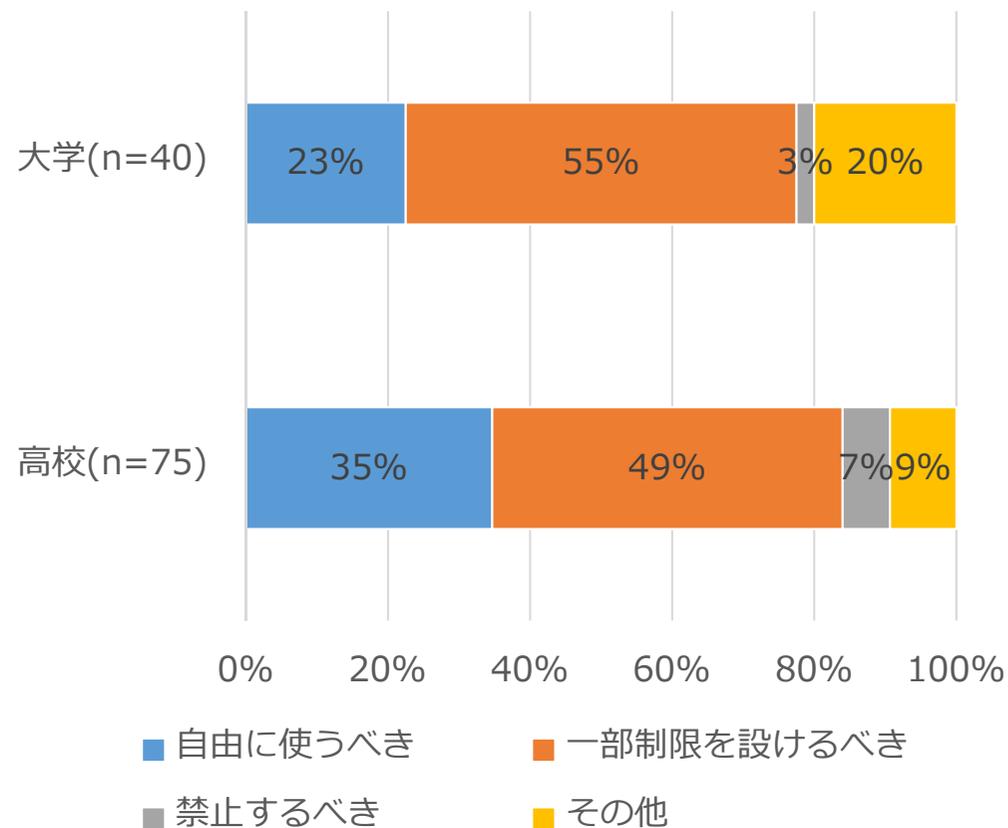
(高) : 高校・中等教育学校、(大) : 大学、
(教) : 教育委員会・教育センター、(企) : 企業

約半数が「一部制限を設けるべき」と回答。「その他」も多くは制限の内容を記載する回答だった。文章作成能力の低下、著作権侵害や情報流出の危険性、情報リテラシーの不足などが挙げられる一方、「社会で活躍するために不可欠」などの理由から自由に使うべきとの回答も見られた。

生徒・学生の利用(n=139)



生徒・学生の利用



※「高校」には中等教育学校含む

自由に使うべき

- 自分で考えない人間になるから禁止という考え方も持っていますが、制限しても生徒たちの方が色々な使い方を見つけるので、意味が薄いと考えています。どんなことに有効であるのか、また現状の欠点（利用上の注意点）に自らの失敗で理解して欲しい。また、自分が活用できるようになるためには、様々な知識などが必要なことに気が付いて欲しい。（高）
- 制限を設けても使用はするだろう。それよりも自身の能力だけでは限界のあるところを、生成AIを使用することでさらにいいものができあがるのであればいいのだと思う。教育の場であれば、使わせないのでなくむしろどのように使えばいいのかを指導すべきなのではと考える。（企）
- 宿題課題に利用するのでなく、自分の知識を深め視野を広げる場面で積極的に使用させるのが良い。禁止したとして、提出物から利用の有無を判断できないこともある。（高）
- 教育機関としてリテラシー教育を行うことが前提だが、使用可能な技術を活用することは、今後の社会で活躍するにおいても意義がある能力となると考える。（大）
- 例えば、課題に対してGPTを利用すればこの程度のもので瞬時にできることを見せた上で、オリジナリティを求めますと説明したのち、制限をかけずに様子を見る。（大）

一部制限を設けるべき

- 授業中の課題については、制限してもよいと思う。あとは制限のしようがない。（高）
- 使わないとデメリットもメリットも体感できない。人生の中でAIなどの技術と付き合っていかなざるを得ない以上、禁止・制限では適応方法を学ぶ機会を奪うことになる。一方で、正しい情報をAIに寄らずに調べる方法や、最低限の知識を学習することは高校生年代までは必要であるので、使用を制限する場面が出てくるのはやむを得ないと考える。（教）
- 参考にするのは問題ないが、最終的には自分の言葉で思いを伝えることを生徒に教えたい。（高）
- 見解を述べるなど、自らの意見や感想を述べる際にAIの回答をそのまま用いることは剽窃ととらえるべきと思うからです。（大）
- 自分の考えをまとめるために補助的に活用するのは良いと思うが、生成AIが出力したものをそのまま自分の作品・文章として使うのは自分で思考・創造したものではないと考えているから。（大）
- 創作を問う課題に生成AIは使用してはならないというルールは設けざるを得ないと思うが、恐らく学生は生成AIを使用するだろう。そうすると、禁止ルールは形式的に定められているに過ぎなくなる。（大）
- レポート課題等については、最初から生成AIを使用して作成することは禁止すべきだと考えるため。ただし、生成AIを全く禁止するのではなく、どのようなメリット・デメリットがあるのかを検討し、賢く使えるようになることは今後必要だと考える。（大）

一部制限を設けるべき

- 保護者の同意を得ることが大前提である。その上で、「スマホをどのように使うか？」と同じように最初は目的をしっかりと定めて使用させて、慣れてくれば自由に使えればよいと思う。(高)
- 情報等の外部流出についてリテラシーや法整備を設定した方が安心であることに加え、初等・中等教育段階でのネットリテラシーの低さや検索や生成されたものについての判断力などが不十分すぎるため。(高)
- 出てきた情報が正しくないかもしれないという前提で対応できる生徒であれば大丈夫だと思う。(高)
- 何かを調べるきっかけに使うのは、効率化の面でもいいと思うが、それが無批判に正しいと思うのはおかしいので、そのまま使うのではなく必ず自分で後付けをするなどの使い方が必要だと考えるから。(高)
- 自由に使う場合に、こちらの情報収取・処理能力が欠如している可能性が高く、適切に評価できない可能性がある。一方で、過去に存在しなかった新たな情報源を利用しない状態で知的な進歩はあり得ない。(大)
- 研究等に有効に活用されるのであれば利用すればよいが、剽窃の危険性、読解力・作文能力向上の障害になるから。(大)
- 自分で調べたり、考えたりという、学習の基本となる態度が身につかないため。(高)
- 自分で文章を書いたり作品を創造する過程において、悩んだり熟考する過程も必要であると考え。中高生は忙しく、時間がないこともあり、AIの力を使ってその場しのぎの制作になることは望ましくない。(高)

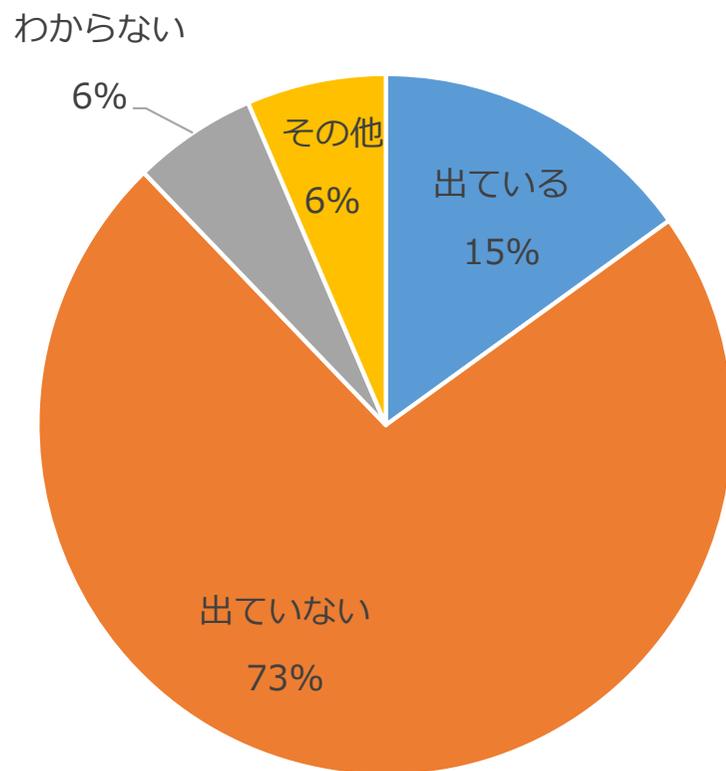
禁止するべき

- 自分の力で学習あるいは作成すべきであり、参考にする程度なら良いがその判断は生徒には難しい。(高)
- 高校生は自らの創造性を育む時期で、安易に頼るべきではない。(高)
- (あくまでマスコミ情報ではあるが)不確かな回答もあるようであり、もしそれが本当であれば、そのような情報に左右されてほしくはない。また、自身で思考することが大切であると考えため。(高)
- 学生の考える能力が低下する恐れがあるのではないか。(大)

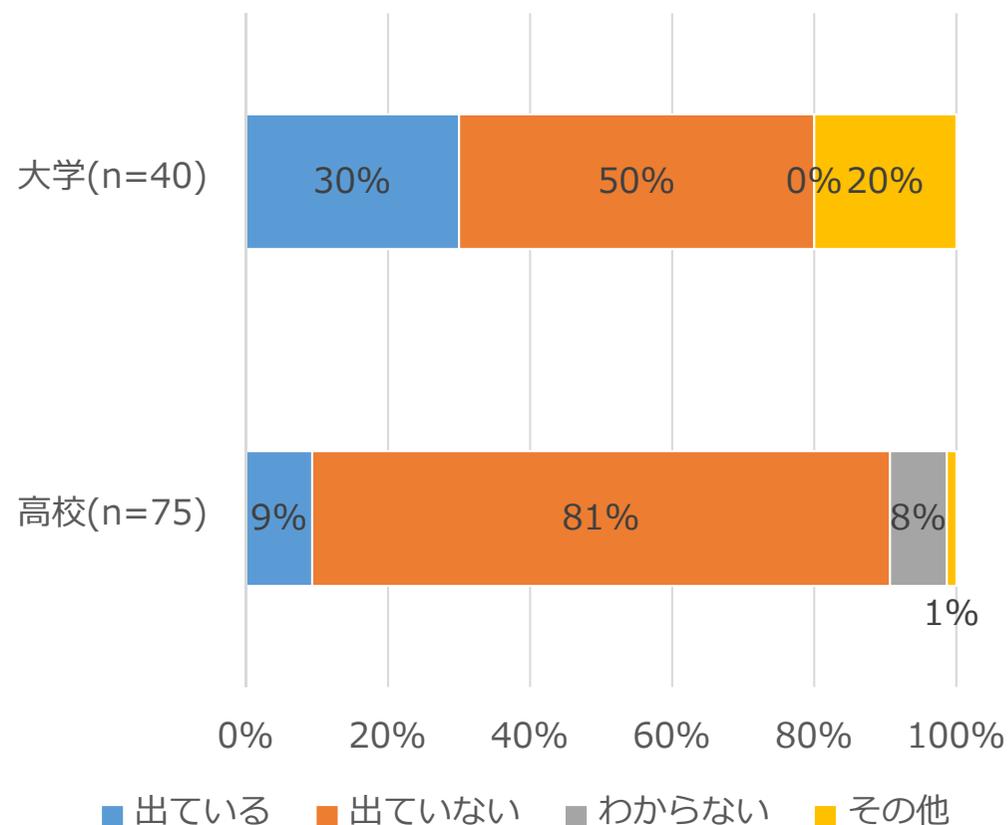
(高) : 高校・中等教育学校、(大) : 大学、
(教) : 教育委員会・教育センター、(企) : 企業

方針が「出ている」は2割未満。大学では約3割と、高校に比べて割合が高い。
方針の内容は、「生成AIで作成した文章をそのまま自分が作成したものとして提出してはならない」
「個人情報を入力しない」「著作権の侵害に注意」など。

利用に関する方針(n=139)



利用に関する方針



※「高校」には中等教育学校含む

- ◆ 本資料の内容の無断転載・複製を禁止します。
- ◆ 本資料に関するお問い合わせやご意見は、こちらまでお寄せください。

学校法人河合塾 教育研究開発部

Email keinet-plus@kawai-juku.ac.jp

河合塾「Kei-Net Plus 教育関係者のための情報サイト」のご案内

URL <https://www.keinet.ne.jp/teacher/>

- 最新の教育情報、独自のインタビュー記事、イベントの案内を随時配信中
- ニュースレター会員募集中